
花、咲き乱れて

千蔭

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花、咲き乱れて

【Nコード】

N8749H

【作者名】

千蔭

【あらすじ】

おれは人にない能力をもっている。それでも、やっとの事で平凡な生活を手に入れたと思ったのに…返せ！おれの日常！来たれ！おれの青春！　なにやら不幸な少年が、不幸な事に、周囲の変人達の起こす不幸に、ひたすら巻き込まれる話かもしれないです。

0、俺の嘆き事

俺は自分が”普通”でないと自覚している。

しかし”普通”でないからこそ、平凡な日常を努力で勝ち取ったのだ。

…そのはずだったのに。
なぜこんなにも俺の周り是非常識な奴ばっかなんだ!?

俺は自分が”普通”でないと自覚している。

でも、アレだよな？

俺の常識がおかしいんじゃないよな？

最近、俺が一番”マトモ”なのではないかと思い始めた。

お願いだから、俺の平凡を帰してください。

1、保健室の王子様

——そうだった。

あの頃俺はまだ幼くて、区別がついていなかった。

だから…

「……か、…つか、りつか！…！」

乱暴に揺^{りつか}られて六花はうすく目を開けた。

見慣れた、保健室の天井だ。

目をこしこしとこすりながら、大儀そうに体を起こす。

「…んだよ。人がせつかく気持ちよく…」

「リツが昼休みに起こせつて頼んだんだろーが！　たく午前の授業全部サボって、なんで昼飯だけは食うかね。学校来てる意味、あんの？」

校則を無視したオレンジの髪をひよいひよいと揺らしながら、六花を起こしにきた男子生徒――暁妃遥太は呆れた声を出した。

「んなことばつかしてっから『保健室の王子様』なんてよばれんだよバーカ」

「…それはマジでやめて欲しい…」

保健室の王子様こと篠浦六花しのうりつかが顔をしかめる。

『保健室の王子様』などと言えば、病弱でやたら美形の貴公子がなにやらフェロモンを飛ばしながら保健室を訪れた生徒を看護する…
…なんてものになりかねない。

「にしても、お前ほど『王子様』が似合わねえのに似合う奴、他にいねえわ」

「どっちやねん」

しかし六花は病弱でもなければ、美形でもない。サボりは多いが病欠はないし、顔は中の上といったところで、せいぜいクラス文集のランキングに入ることもあるかもなくらいである。

そんな彼が『王子様』な理由…

証言A

『えっだって、保健室つてもはや彼の領地でしょう？』

証言B

『…というか城！？保健の先生より保健室に詳しそうだし』

証言C

『いや、アイツはベッドにしか興味ないから、薬とかの管理はわからないわよ』

証言D

『そうねえ…でも検温のごまかしかと快適な空調を保つことにかけては天才的らしいわよ』

…… e t c

証言」

「あれはねえ「もうやめれ、わかったから」

結局、保健室を私利私欲のためだけに、我が物顔で使うから保健室という一国の主『王子様』なわけで…

「そおいやさ、保健のセンセ何も言わんわけ？」

「ギブあんどテイク」

遥太が保健室の奥を覗きこむと養護教員の湯原敦子（ゆはら あつこ）（52）は、何やら韓国語らしき音の漏れるパソコン画面を観ながら目頭をハンカチでおさえている。

——この学校は大丈夫なんだろうか……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8749h/>

花、咲き乱れて

2010年12月15日02時36分発行